

(別紙)

## 対ウルグアイ輸出食肉の取扱要綱

(作成日：平成31年 3月 11日)

### 1 目的

この要綱は、ウルグアイ向けに輸出する食肉（以下「対ウルグアイ輸出食肉」という。）について、ウルグアイが求める家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）第45条第3項に基づき発行される家畜伝染病予防法施行規則（昭和26年農林省令第35号。以下「施行規則」という。）第54条第1項で定める輸出検疫証明書（以下「輸出検疫証明書」という。）の発行手続等を定めるものである。

### 2 対ウルグアイ輸出食肉の要件

#### (1) 食肉衛生関係

ア 牛の骨付き若しくは骨なしの骨格筋又は横隔膜であり、牛の頭部、足部（四肢の手根関節又は足根関節遠位端以降の部位）、蹄、内臓を含まないこと。

イ 厚生労働省によって認定されたと畜場及び食肉処理場（以下「と畜場等」という。）でとさつ・解体及び分割が行われたものであること。

ウ と畜検査に合格した健康な動物に由来し、人の食用に適していると判断されたものであること。

エ ウルグアイ向け牛肉等の梱包に用いる包装及び/又はカートンボックス等の容器は、清潔で衛生的なものであること。

#### (2) 動物用医薬品及び飼料関係

対ウルグアイ輸出食肉の由来となる牛には、成長促進目的で、ホルモン、エストロゲン、抗甲状腺薬、タンパク同化又は成長促進効果を持つ以下の物質が使用されていないこと。

ア 抗甲状腺薬のうち、チオウラシル、メチルチオウラシル、プロピルチオウラシル、フェニル（チオ）ウラシル、チアマゾール（タパゾール）。

イ β-作動薬のうち、クレンブテロール、サルブタモール、ジルパテロール、ラクトパミン、マブテロール、シンプテロール、テルブタリン、ブロムブテロール、クレンペンテロール、ツロブテロール、マペンテロール。

ウ スチルベン類のうち、DES、ヘキサエストロール、ジエネストロール、ジエチルベストロール。

エ 大環状ラク톤のうち、ゼラノール。

オ アンドロゲンのうち、トレンボロン、ノルテストステロン、ボルデノン、メチルテストステロン。

#### (3) 家畜衛生関係

ア 日本が牛海綿状脳症の無視できるリスク国として国際獣疫事務局（以下、「OIE」という。）に認定されていること。

イ 日本が口蹄疫の清浄国としてOIEに認定されていること。

ウ 日本で出生し、飼養され、及びとさつされた牛由来の製品であること。

エ 対ウルグアイ輸出食肉は、ウルグアイ向けの船積みまでの間、家畜の伝染性  
疾病の病原体に汚染される恐れのない方法で取り扱われること。

### 3 認定の要件

対ウルグアイ輸出食肉を取り扱うと畜場等は、次の要件を満たさなければならない。

- (1) 「対米輸出食肉を取り扱うと畜場等の認定について」（平成2年5月24日付け衛乳第35号厚生省生活衛生局長通知）の別紙「対米輸出食肉を取り扱うと畜場等の認定要綱」又は「対EU輸出食肉の取扱いについて」（平成25年3月29日付け食安発0329第8号厚生労働省医薬食品安全部長、24消安第6381号農林水産省消費・安全局長連名通知）の別紙「対EU輸出食肉の取扱要綱」に基づき認定されていると畜場等であること。
- (2) 6に基づく、不正防止対策が実施されていること。

### 4 と畜場等の認定等の手続

#### (1) と畜場等の設置者の申請手続

対ウルグアイ輸出食肉を取り扱うと畜場等としての認定を受けようとする  
と畜場等の設置者（以下「設置者」という。）は、と畜場にあつては別紙様式1により、  
食肉処理場にあつては別紙様式2により当該と畜場等を管轄する食肉衛生検査所  
長又は保健所長及び都道府県知事又は保健所を設置する市の市長（以下「都  
道府県知事等」という。）を経由して厚生労働省宛て申請し、併せて、当該申請  
書類の副本を当該と畜場等のある地域を管轄する地方厚生局健康福祉部食品衛生  
課（以下「地方厚生局」という。）宛て提出する。

#### (2) 都道府県等の提出手続

設置者から申請書を受け付けた都道府県知事等は、別紙様式3により厚生労働  
省宛て提出し、併せて、当該申請書類の副本を地方厚生局宛て提出する。

#### (3) と畜場等の認定

厚生労働省は、当該と畜場等をウルグアイに食肉を輸出可能なと畜場等（以下  
「認定と畜場等」という。）と認定し、認定番号を付し、都道府県知事等を通じ  
設置者にその旨通知するとともに、ウルグアイ農牧水産省畜産総局（以下「DG  
SG」という。）宛て通知する。

### 5 衛生証明書等の発行

#### (1) 食肉衛生検査所への検査申請

認定と畜場等において、食肉をウルグアイに輸出するために牛をとさつ・解体  
及び分割しようとする者は、と畜場法施行令（昭和28年政令第216号）第7条に  
定める検査申請書のほか、別紙様式4による申請書をあらかじめ管轄する食肉衛  
生検査所に提出する。なお、電子メール又は輸出入・港湾関連情報処理システム  
（以下「NACCS」という。）により申請を行う場合にあつては、別添1「電子メ

ール又は NACCS による食肉衛生証明書の発行申請手続」によることとする。

(2) 輸出食肉に関する食肉衛生証明書の発給等

ア 食肉衛生検査所は、検査に合格した食肉に対して、当該食肉の輸出時に別紙様式 5 による食肉衛生証明書を発行する。

イ 検査に合格した食肉を認定と畜場等の外部の施設に搬出し、保管を行う場合であって、食肉衛生証明書の発行時点で荷送人、荷受人又は仕向地が未定である場合には、食肉衛生証明書の該当欄に「×××」と記載の上、再発行が必要である旨を明記して発行し、申請者よりこれら記載事項の報告と併せて当該証明書の提出を受けた後に、当該証明書と同日付けで食肉衛生証明書を再発行する。

ウ 食肉衛生検査所は、食肉衛生証明書の原本及び副本を申請者に発行するとともに、原本の写しを食肉衛生検査所に保管する。

(3) 動物検疫所への輸出検査申請

ウルグアイへ食肉を輸出しようとする者は、前記 2 に示す要件を理解した上で、動物検疫所に対し、以下の書面を提出すること。

ア 施行規則第 52 条第 1 項に規定する輸出検査申請書

イ (1) に基づき検査申請した書面又は電子メールの写し

(4) 食肉衛生証明書の原本の提出

(3) により輸出検査の申請を行った者（以下「申請者」という。）が、(2) に基づく食肉衛生証明書の原本の交付を受けた場合は、動物検疫所に対し、当該原本を提出すること。

(5) 輸出検疫証明書の交付

ア 動物検疫所は、(3) 及び (4) に基づく提出書類等から得られた情報により、別添 2 の輸出条件を満たしておりウルグアイ向けに輸出可能なものであることが確認できた食肉に対して輸出検疫証明書（別紙様式 6）を交付する。

イ 動物検疫所は、輸出検疫証明書の原本及び副本を申請者に交付するとともに、当該原本の写し及び関係書類を保管する。

ウ 申請者は、交付された輸出検疫証明書の原本を当該食肉に添付して輸出する。

(6) 食肉衛生証明書等の返納

申請者は、(2) により発行された食肉衛生証明書又は (5) により交付された輸出検疫証明書に係る食肉について、ロットの再構成や封印シールの開封等を行った場合には、速やかに食肉衛生証明書又は輸出検疫証明書をそれぞれの交付機関に返納するものとする。

6 不正の防止基準

(1) 検印及び封印シール

ア 食肉衛生検査所は、検査に合格した枝肉等に押印する検印及び容器包装の封印シールについては、対米認定要綱別添 4 第 1 の 1 (1) に基づく承認を受けたものを使用すること。

イ 食肉衛生検査所は、検印及び封印シールの保管・管理については、対米認定要綱

別添4第1の2（（1）及び（2）のうち、保管台帳の写しの厚生労働省への届出に係る部分並びに（3）を除く。）に準じた管理をすること。

（2） 輸送コンテナ等の封印

対ウルグアイ輸出食肉が第三国を経由して輸出される場合、ウルグアイに食肉を輸出しようとする者は、次の方法により封印を行うこと。

ア 対ウルグアイ輸出食肉が入った容器包装を梱包可能な形にまとめて、他の荷物と区別し、輸送時に破損しない方法を用いて清潔で衛生的な輸送容器（ラップによる包装を含む。）で梱包すること。

イ その上で、動物検疫所等は当該輸送容器に、固有の番号を記載し、開封時には破損される封印を施すこと。

なお、ウルグアイ到着時のウルグアイ当局による輸入時検査において、輸出から当該検査までの間に、上記封印が破損され、開封されていると見なされた場合、輸入が認められないことがある。

7 製品の登録及び表示

ウルグアイに食肉を輸出しようとする者は、事前に製品情報を DGSG に申請し、承認を受け、対ウルグアイ輸出食肉の外包装及び内包装には、DGSG において承認された事項をスペイン語で表示すること。

(別添1)

電子メール又は NACCS による食肉衛生証明書の発行申請手続

1 食肉衛生証明書の発行申請前の手続

(1) 電子メールにより発行申請を行う場合

食肉を輸出しようとする者（以下「輸出者」という。）は、別紙様式7に必要事項を記入の上、以下により年度内の輸出計画書を、書面にて認定と畜場等を管轄する食肉衛生検査所長又は保健所長あてに提出すること。

- ①輸出計画は、前年度の輸出実績、当該年度の事業計画などを踏まえ、提出時点で作成可能な内容を記載すること。
- ②一つの輸出計画書に、同一の食肉衛生検査所又は保健所で食肉衛生証明書を発行する他の輸出先国・地域向けの輸出計画を併せて記載して差し支えない。
- ③輸出先国・地域や輸出する食肉の畜種に追加が生じた場合は、同様式により輸出計画の変更を届け出ること。なお、輸出年月及び数重量に変更が生じた場合にあつては、変更の届出は要しない。

(2) NACCS により発行申請を行う場合

輸出者は、輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社のウェブサイトに掲載されている NACCS 掲示板にアクセスし、同社に対して、輸出証明書等発給申請業務の利用申込みの手続を行うこと。

2 食肉衛生証明書の発行申請手続

輸出者は、食肉を輸出しようとする都度、電子メール又は NACCS を利用して、食肉衛生証明書の発行申請に必要な書類を管轄の食肉衛生検査所又は保健所あてに提出すること（その際、発行申請書への代表者印等の押印は要しない。）。なお、電子メールにより発行申請を行う場合であつて、1（1）の輸出計画書を予め提出していない輸出先国・地域又は畜種の輸出を行う場合は、必要な書類を郵送等により提出すること。

また、発行申請に当たっては、以下の事項に留意すること。

- (1) 申請に利用する情報システムについて、セキュリティ対策に努めること。
- (2) 食肉衛生証明書は、従来どおり書面による交付となることから、受取方法について証明書発行機関とあらかじめ調整すること。

(別添2 輸出条件)

**Requirements for meat derived from cattle to be exported to Uruguay from Japan**

Requirements for meat derived from cattle to be exported to Uruguay from Japan are as follows.

**(Definitions)**

For the purpose of these requirements:

**beef etc.**

means meat (skeletal muscle and diaphragm) derived from cattle. Beef etc. does not include the head, feet (distal portion to the tarsal and carpal joints), hooves and viscera of cattle.

**“the exported beef etc. to Uruguay”**

means beef etc. to be exported to Uruguay from Japan

**"occurrence"**

means:

- a) detection of specific antigens, nucleic acid or antibodies that are not the consequence of vaccination of relevant diseases; or
- b) isolation and identification of the pathogen of the relevant disease; as specified for individual diseases

**“the approved export facility”**

means the slaughterhouses and processing facilities which are approved by the Japanese food safety authority(MHLW) to export beef and meat products to Uruguay

**"the food safety authority of Japan"**

means Food Inspection and Safety Division, Pharmaceutical Safety and Environmental Health Bureau, Ministry of Health, Labour and Welfare

**"the animal health authority of Japan"**

means the Animal Health Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of the Japanese Government

**"the animal health authority of Uruguay"**

means the General Directorate of Livestock Services (DGSG), Ministry of Livestock, Agriculture and Fisheries (MGAP).

**(General requirements)**

1. Japan is recognised by the OIE as a country of negligible risk with respect to bovine spongiform

encephalopathy (BSE).

2. Japan is recognised by the OIE as free from foot and mouth disease (FMD).

**(Requirements for cattle to be slaughtered for the exported beef etc. to Uruguay)**

3. The product is derived from animals born, raised and slaughtered in Japan.

4. Animals have not been sacrificed as a result of programs for the eradication of FMD, contagious bovine pleuropneumonia, nor do they come from farms subject to quarantine control measures that imply risk of these diseases for their commercialization.

5. No substances with hormonal, estrogenic, thyrostatic, anabolic or growth-promoting effect indicated below have been used in the animals which the products are derived for growth-promoting purpose.

- Thyrostatic (Thiouracil, Methylthiouracil, Propylthiouracil, Phenyl(thio)uracils, Tapazole)
- beta-agonists (Clenbuterol, Salbutamol, Zilpaterol, Ractopamine, Mabuterol, Sinbuterol, Terbutaline, Brombuterol, Clenpenterol, Tulobuterol, Mapenterol)
- Stilbenes (DES, Hexestrol, Dienoestrol, Diethylbestrol)
- Macrocyclic lactones (Zeranol)
- Androgens (Trenbolone, Nortestosterone, Boldenone, Methyltestosterone)

6. Animals were slaughtered and found healthy, not presenting any signs of infectious disease at ante- and post-mortem inspection by the official veterinarian.

7. The cattle which the product derives are from a BSE negligible risk country.

**(Requirements for the approved export facilities)**

8. The approved export facilities must be located in Japan and have been authorized by food safety authorities of Japan. The food safety authorities of Japan must inform the animal health authorities of Uruguay the name, address and establishment number of the facilities in advance of the export to Uruguay from the said facilities.

9. The approved export facilities must be approved to export to the United States or European Union.

**(Requirements for the products)**

10. The beef etc. must be derived from cattle slaughtered, processed in the designated facilities.

11. The beef etc. are sound and fit for human consumption.

12. The beef etc. are included in the framework of a program of residues control and food hygiene considering as equivalent between both countries.
13. The exported beef etc. to Uruguay must be handled in a manner preventing exposure to any causative agents of infectious animal diseases until shipment to Uruguay. Clean and sanitary wrappings and/or containers such as cardboard boxes must be used to pack the exported beef etc. to Uruguay.

**(Others)**

14. If any of the exported beef etc. to Uruguay is transported through the third countries, the exported beef etc. to Uruguay must be placed in an enclosed container. The animal health authority of Japan must seal the container with an official seal that can be readily identified. In case the said seal is found to be damaged at the time of inspection after arrival in Uruguay, the exported beef etc. to Uruguay in question may not be released into Uruguay.
15. The animal health authority of Japan must maintain the current animal health system, the system for individual identification and traceability in cattle, measures to prevent introduction, control spread, and detect FMD and BSE. Especially for FMD, the animal health authority of Japan will maintain the current system for border control, surveillance and diagnosis, and domestic control measures. In case that the animal health authority of Japan intends to amend or abolish the regulations or measures on FMD or BSE, the animal health authority of Japan must notify the Uruguayan animal health authority of the fact in advance.
16. If the animal health authority of Japan or the Uruguayan animal health authority confirms an FMD occurrence in neighbouring countries of Japan or identify an increase of the risk of FMD occurrence in Japan, the animal health authority of Japan must provide relevant information on such incidence and information on measures already conducted or to be conducted, to the Uruguayan animal health upon their request.
17. In case that the animal health authority of Japan plans to amend control measures against FMD, they must provide the Uruguayan animal health authority with the relevant information.
18. Based on the information provided under Paragraphs 15 to 17, the Uruguayan animal health authority may take necessary measures such as temporary suspension of the importation of the exported beef etc. to Uruguay or revision of the animal health requirements.
19. If an occurrence of FMD or BSE is confirmed in Japan, the animal health authority of Japan must immediately inform the Uruguayan animal health authority and suspend issuing inspection certificate of the exported beef etc. to Uruguay. The animal health authority of Japan must provide detailed information of the occurrence and measures taken. The Uruguayan



animal health authority immediately bans the importation of meat etc. from Japan. Any of the exported beef etc. to Uruguay which are then en route to Uruguay must be rejected except for meat etc. which was demonstrated to have no epidemiological links to the occurrence.

20. The Uruguayan animal health authority may conduct on-site visit in order to evaluate FMD free status of Japan.

21. The animal health authority of Japan must inform Uruguayan animal health authority of occurrence of animal infectious diseases without delay when immediate notification has been made to OIE pursuant to the provisions of the Terrestrial Animal Health Code of OIE. The animal health authority of Japan must provide reports concerning occurrence of animal diseases upon request from the Uruguayan animal health authority.

**(Issue of inspection certificate)**

22. The animal health authority and the food safety authority of Japan must be responsible for issuing an inspection certificate for the exported beef etc. to Uruguay, certifying the following items in detail in English:

- (1) Each requirement of items 1 to 7 and 10 to 13
- (2) Prefecture of origin
- (3) Name, address and approval number of the approved export facilities
- (4) Dates of slaughter, cutting, processing and packaging
- (5) Date, authority' name and place of issue of the inspection certificate, and name and title of signatory
- (6) Identification number of the official seal sealing up the container etc. (in case the transporting container etc. is sealed up with a seal in accordance with item 14.

(別添2 仮訳)

日本からウルグアイ向けに輸出される牛肉に係る条件

日本からウルグアイ向けに輸出される牛肉に係る要件は以下のとおり。

(定義)

本条件の適用において、以下のとおり定義する。

「牛肉等」

牛の肉（骨格筋及び横隔膜）を指す。牛の頭部、足部（四肢の手根関節又は足根関節遠位端以降の部位）、蹄及び内臓は含まれない。

「ウルグアイ向け牛肉等」

日本からウルグアイ向けに輸出される牛肉等

「発生」

- a) 該当疾病の特異抗原、核酸若しくは感染抗体（ワクチン接種によるものではない）の検出、又は、
- b) 該当疾病の病原体の分離及び同定

「認定輸出施設」

日本国食品衛生当局によりウルグアイ向け牛肉等輸出施設として認定されたと畜場及び加工施設

「日本国食品衛生当局」

厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

「日本国家畜衛生当局」

農林水産省消費・安全局動物衛生課

「ウルグアイ家畜衛生当局」

ウルグアイ農牧水産省（MGAP）畜産総局（DGSG）

(一般条件)

1. 日本が牛海綿状脳症（BSE）の無視できるリスク国としてOIEに認定されていること。
2. 日本が口蹄疫（FMD）の清浄国としてOIEに認定されていること。

(ウルグアイ向け牛肉等としてとさつされる牛の条件)

3. 日本で出生し、飼養され、とさつされた動物由来の製品であること。

4. (製品の由来となる) 動物は、FMD 及び牛肺疫の撲滅プログラムの結果殺処分されたものではなく、また、商品化に向けて、これらの疾病のリスクを暗示させる隔離措置を課されている農場由来ではないこと。

5. 製品の由来となる動物には、成長促進目的で、ホルモン、エストロゲン、抗甲状腺薬、タンパク同化または成長促進効果を持つ以下の物質が使用されていないこと。

抗甲状腺薬 (チオウラシル、メチルチオウラシル、プロピルチオウラシル、フェニル (チオ)ウラシル、チアマゾール (タパゾール))、 $\beta$ -作動薬 (クレンプテロール、サルブタモール、ジルパテロール、ラクトパミン、マブテロール、シンブテロール、テルブタリン、ブロムブテロール、クレンペンテロール、ツロブテロール、マペンテロール)、スチルベン類 (DES、ヘキサエストロール、ジエネストロール、ジエチルベストロール)、大環状ラクトン (ゼラノール)、アンドロゲン (トレンボロン、ノルテストステロン、ボルデノン、メチルテストステロン)

6. (製品の由来となる) 動物は、とさつされ、日本の公的獣医官による生前及び生後検査で、伝染性疾病の兆候が認められず健康と判断されたこと。

7. 製品の由来となる牛は、BSE の無視できるリスク国由来であること。

#### (認定輸出施設の条件)

8. 認定輸出施設は、日本国内に所在しており、日本国食品衛生当局により認定を受けていること。日本国食品衛生当局は、当該施設からウルグアイ向け輸出開始に先立ち、ウルグアイ家畜衛生当局に認定輸出施設の名称、所在地及び施設番号を通知しなければならない。

9. 認定輸出施設は、米国又は EU 向け牛肉輸出施設として認定を受けていること。

#### (製品の条件)

10. ウルグアイ向け牛肉等は、認定施設でと畜及び加工された牛由来であること。

11. ウルグアイ向け牛肉等は、人の食用に適しており、正当なものであること。

12. ウルグアイ向け牛肉等は、双方の国で同等と見なされている残留物質コントロール及び食品衛生のプログラムの枠組に含まれている。

13. ウルグアイ向け牛肉等は、ウルグアイ向けの船積みまでの間、家畜の伝染性疾病の病原体に汚染される恐れのない方法で取り扱われること。ウルグアイ向け牛肉等の梱包に用いる包装及び/又はカートンボックス等の容器は、清潔で衛生的なものであること。

#### (その他の条件)

14. ウルグアイ向け牛肉等が第3国を経由して輸送される場合は、封印された密閉式コンテナに収容され、かつ、当該コンテナは、日本国家畜衛生当局により封印されること。なお、封印様式については、輸出国以外の封印と明確に識別できるものであること。また、ウルグアイ到着時の検査において、当該封印の破損又は脱落等がある場合には、当該ウルグアイ向け牛肉等のウルグアイへの持ち込みを認めないことがある。
15. 日本国家畜衛生当局は、現行の家畜衛生体制、牛の個体識別・トレーサビリティ体制、FMD及びBSEの侵入防止並びにまん延防止及び摘発のための措置を継続すること。特にFMDについては、国境検疫体制、サーベイランス体制・診断体制、国内防疫体制を維持すること。日本国家畜衛生当局がFMD又はBSEに関する規則・措置の改廃を行う場合、日本国家畜衛生当局は事前にウルグアイ家畜衛生当局に通報すること。
16. 日本国家畜衛生当局又はウルグアイ家畜衛生当局が、日本周辺国におけるFMDの発生等、日本におけるFMDの発生リスクが高まっていると認める場合には、日本国家畜衛生当局はウルグアイ家畜衛生当局の求めに応じウルグアイ家畜衛生当局に対し、当該情報及び講じた又は講じる措置についての情報を提供すること。
17. 日本におけるFMDの防疫措置の変更が計画されている場合には、日本国家畜衛生当局はウルグアイ家畜衛生当局に対し、当該情報を提供すること。
18. 上記15から17までに基づき提供された情報を踏まえ、ウルグアイ家畜衛生当局は、ウルグアイ輸出牛肉の一時輸入停止や家畜衛生に係る条件の見直し等の必要な措置を講じることができること。
19. 日本において、FMD又はBSEの発生があった場合、日本国家畜衛生当局は直ちにウルグアイ家畜衛生当局に通知するとともにウルグアイ向け牛肉等への輸出証明書の発行を停止すること。また、発生の詳細と講じた措置に関する情報提供を行うこと。  
ウルグアイ家畜衛生当局は、発生後、ただちに日本を対象とした牛肉等の輸入停止措置をとる。輸送途中のウルグアイ向け牛肉等については、当該疾病の発生と疫学的な因果関係が明確に否定されるもの以外は、ウルグアイへの持ち込みを認めないものとする。
20. ウルグアイ家畜衛生当局は日本のFMD清浄性の評価のため、現地調査を実施することができる。
21. 日本国家畜衛生当局はOIEに対し、OIE国際動物衛生規約の規定に従い緊急通報を行った際は、家畜伝染病の発生について遅滞なくウルグアイ家畜衛生当局に通報しなければならない。日本国家畜衛生当局は、ウルグアイ家畜衛生当局の求めに応じ、家畜伝染病の発生に関する報告を行わなければならない。

(検査証明書の発行)

22. ウルグアイ向け牛肉等の輸出に当たって、日本国家畜衛生当局及び食品衛生当局は、次の各事項を具体的に記載した英文による検査証明書を発行すること。

(1) 上記 1～7、10～13

(2) 原産地（県）

(3) 認定輸出施設の名称、所在地及び認定番号

(4) とさつ年月日、加工年月日及び梱包年月日

(5) 検査証明書の発行年月日、発行機関の名称及び発行場所並びに署名者氏名及びタイトル

(6) コンテナ等を封印した封印の番号（前記 14 の規定に基づく封印によりコンテナ等が封印されている場合。）

(別紙様式 1 と畜場設置者申請様式)

年 月 日

厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官 殿

申請者 住所  
氏名 印  
法人にあつてはその所在地、名称及び  
代表者氏名

対ウルグアイ輸出と畜場認定申請書

対ウルグアイ輸出食肉を取り扱うと畜場として認定を受けたく、下記のとおり申請いたします。

記

- 1 と畜場の所在地及び名称（法人にあつては法人番号）
- 2 衛生管理責任者名

(別紙様式2 食肉処理場設置者申請様式)

年 月 日

厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官 殿

申請者 住所  
氏名 印  
法人にあってはその名称、所在地及び  
代表者氏名

対ウルグアイ輸出食肉処理場認定申請書

対ウルグアイ輸出食肉を取り扱う食肉処理場として認定を受けたく、下記のとおり申請いたします。

記

- 1 食肉処理場の所在地及び名称（法人にあっては法人番号）
- 2 衛生管理責任者名

(別紙様式3 都道府県等申請様式)

年 月 日

厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官 殿

都道府県知事等名

対ウルグアイ輸出食肉の取扱いについて

別添のとおり、と畜場及び食肉処理場設置者から対ウルグアイ輸出食肉取扱い施設としての認定を受けたいとの申請があり、内容を審査したところ差し支えないものと思料されるので、提出します。



(別紙様式 4 検査申請書様式)

年 月 日

都道府県知事  
保健所設置市長 殿

申請者 住所  
氏名 印  
法人にあつてはその名称、所在地及び  
代表者氏名

食 肉 検 査 申 請 書

対ウルグアイ輸出食肉につき、検査を受けたいので下記のとおり申請いたします。

(1) とさつ しょう とする 年月日	(2) と 体 番 号	(3) 性別	(4) 品種	(5) 月 齢	(6) 出生 の年 月日	(7) 特徴	(8) 産地	(9) 個体識 別番号	(10) 生産者 氏 名

- (11) 販売先住所・氏名
- (12) と畜場及び食肉処理場名称
- (13) 仕向け地
- (14) 積み荷記号

(別紙様式 5 食肉衛生証明書様式)

STANDARD FORM AUTHORIZED  
BY THE MINISTRY OF HEALTH, LABOUR AND  
WELFARE OF JAPAN

**HEALTH CERTIFICATE FOR EXPORT OF BEEF**  
**FROM JAPAN TO URUGUAY**

No. :.....

DATE OF ISSUE :.....  
(Month/Day/Year)

**I. Identification of the products**

(Type of cuts)		(Identification number of cattle)
(Number of pieces or package)	(Net weight)	(Lot number)
(Exporter)	(Exporter address)	
(Consignee)	(Consignee address)	

**II. Origin of products**

Name	Est. No.	Address
(Slaughterhouse)		
(Cutting/processing plant)		

Date of slaughter: .....

Date of processing: .....

Type of package of the meat: .....

I hereby certify that / Por la presente certifico que:

- 1) Animals were slaughtered and found healthy, not presenting any signs of infectious disease at ante- and post-mortem inspection by the official veterinarian.

- 2) The product is derived from animals born, raised and slaughtered in Japan.
- 3) The beef etc. were derived from cattle slaughtered, processed in the approved export facilities.
- 4) The beef etc. are sound and fit for human consumption.
- 5) The beef etc. are included in the framework of a program of residues control and food hygiene considering as equivalent between both countries.
- 6) The exported beef etc. to Uruguay was handled under hygienic conditions and every precaution was taken to prevent direct or indirect contact during slaughter, processing and packaging of the meat and meat products with any animal product or by-product derived from bovine of lesser zoosanitary status. Clean and sanitary wrappings and/or containers such as cardboard boxes are used to pack the exported beef etc. to Uruguay.

Name of authority: .....

Name of meat inspector: .....

Official Title: .....

Signature: .....

Name of prefecture or city: .....

(Official stamp)

(別紙様式 6 輸出検疫証明書様式)

日本国農林水産省  
輸出検疫証明書  
EXPORT QUARANTINE CERTIFICATE  
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Japanese Government

検疫証明書番号  
Certificate NO.

申請者住所  
Address of applicant

発行年月日  
Date of issue

氏名(法人にあつては、その名称及び代表者の氏名)  
Name (In case of juridical person, state its title and name of representative)

下記は、家畜伝染病予防法の規定に基づく検査の結果、家畜の伝染疾病の病原体をひろげるおそれがないことを証明する。

This is to certify that the undermentioned articles are free from any evidence of disseminating causative agent of any animal infectious disease in consequence of the inspection referred to the Domestic Animal Infectious Diseases Control Law.

物品の種類 Kind of article	
重量、個数又はこうり数 Weight, Nos. of package or containers	
商標 Trade Mark	
容器包装の種類 Kind of container or package	
荷送人住所氏名 Name and address of consignor	
荷受人住所氏名 Name and address of consignee	
とう載地及びとう載年月日 Date & place of shipment	
とう載船舶(航空機)名 Name of ship or flight	
検査実施年月日及びその状況 Date & condition of inspection	
備考 Remarks	

農林水産省動物検疫所  
Animal Quarantine Service

家畜防疫官  
Animal Quarantine Officer

氏名  
(Signature)

印  
(Seal)

# Attached Export Quarantine Certificate

Japanese beef to be exported to Uruguay

Prefecture of origin:	Seal No.
-----------------------	----------

## **(General requirements)**

1. Japan is recognised by the OIE as a country of negligible risk with respect to bovine spongiform encephalopathy (BSE).
2. Japan is recognised by the OIE as free from foot and mouth disease (FMD).

## **(Requirements for cattle to be slaughtered for the exported beef etc. to Uruguay)**

3. Animals have not been sacrificed as a result of programs for the eradication of FMD, contagious bovine pleuropneumonia, nor do they come from farms subject to quarantine control measures that imply risk of these diseases for their commercialization.
4. No substances with hormonal, estrogenic, thyrostatic, anabolic or growth-promoting effect indicated below have been used in the animals which the products are derived for growth-promoting purpose.
  - Thyrostatic (Thiouracil, Methylthiouracil, Propylthiouracil, Phenyl(thio)uracils, Tapazole)
  - beta-agonists (Clenbuterol, Salbutamol, Zilpaterol, Ractopamine, Mabuterol, Sinbuterol, Terbutaline, Brombuterol, Clenpenterol, Tulobuterol, Mapenterol)
  - Stilbenes (DES, Hexestrol, Dienoestrol, Diethylbestrol)
  - Macrocyclic lactones (Zeranol)
  - Androgens (Trenbolone, Nortestosterone, Boldenone, Methyltestosterone)
5. The exported beef etc. to Uruguay must be handled in a manner preventing exposure to any causative agents of infectious animal diseases until shipment to Uruguay. Clean and sanitary wrappings and/or containers such as cardboard boxes must be used to pack the exported beef etc. to Uruguay.

Authority name: Animal Quarantine Service, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries	
Place and Date:	Title of signatory:
Official Stamp	Name of signatory:
	Signature of Official Veterinarian:

(別紙様式7 食肉輸出計画書)

年 月 日

食肉衛生検査所長／保健所長 殿

申出者 住所  
氏名 印  
法人にあってはその所在地、名称、及び  
代表者氏名

食肉輸出計画書

平成〇〇年度の食肉の輸出計画を下記のとおり提出いたします。

記

1. 担当者

部署名：

担当者氏名：

電話番号：

E-mail アドレス：

2. 輸出計画

輸出年月	輸出先国・地域	食肉の畜種	数重量